International Cooperation Center for
Agricultural Education, Nagoya University

ICCAE news

No.22 2012.12.1

名古屋大学 農学国際教育協力研究センター ニュース

平成24年12月1日発行　通巻22号（年2回発行）

発 行／名古屋大学 農学国際教育協力研究センター
〒464-8601 名古屋市千種区不老町
TEL 052-789-4225（受付）FAX 052-789-4222
http://iccae.agr.nagoya-u.ac.jp/index.html
e-mail:iccae@agr.nagoya-u.ac.jp

国際シンポジウム「農林水産研究分野で国際的に活躍できる日本人研究者の育成の現状と課題」

―農学国際教育協力研究センター 第13回オープンフォーラム―

地球規模課題解決のため、国際共同研究、国際研究フォーラムや国際会議等の農林水産研究分野で国際的に活躍する日本人のプレゼンスを高めるにはどのような方策が考えられるか、そのための人材育成の取組の方向性はどこにあるか、海外から見て日本人が忘れていることはないか。このような課題を議論するための国際シンポジウムが、農林水産省の委託を受けた事業の一環として、11月９日、東京・神田で開催されました。これは農学国際教育協力研究センターの第13回オープンフォーラムとして開催されたものです。

講演では、国際農林水産業研究センター（JIRCAS）の小山修研究戦略室長が「国際農業研究の動向と日本人研究者に求められる資質・能力」、国際協力機構（JICA）の熊代輝義農村開発部長が「農業分野における国際協力の動向と国際協力人材に求められる資質・能力」、九州大学熱帯農学研究センターの緒方一夫教授が「国際的に活躍できる日本人研究者の育成に向けた大学教育の現状と課題」、CEAMEO-SEARCA（東南アジア教育大臣機構・東南アジア農学高等教育研究地域センター）のエディサ・セディコール大学院奨学金担当マネージャーが「Enhancing human resource capacities in international agricultural research: Lessons and options for young Japanese researchers」、それにカタギ食品株式会社の高田直幸社長が「国際農業研究への期待と日本人研究者に求められる能力～民間企業の視点から」について、それぞれの立場からみた日本人研究者に求められる資質・能力や人材育成の取組について報告が行われました。セディコール氏から国際農業研究の現場で研究している日本人の人数は非常に限られている現実が指摘され、また、世界には研究者に限らず研究管理等の研究支援者、研究マネージャー、農業者など様々なキャリアーがあることが述べられました。高田直幸氏からは基礎研究だけでなく、社会貢献的な性格を持った応用研究や技術支援または技術移転に活躍の場があること、また、国際協力に係わる大学教員の評価や長期海外赴任する場合の身分保障の問題なども出されました。

パネルディスカッションでは、上記講演者に農林水産省農林水産技術会議事務局の内川昭彦国際研究課長と総合地球環境学研究所の石川智士准教授をパネリストに加え、「農林水産研究分野で国際的に活躍できる日本人研究者の育成に向けた提言」と題した議論を行いました。パネリストだけでなく、フロアからも多くの意見が出されました。海外に興味を持っている学生は一定数いるので、そのような学生にどのように現場のおもしろさを体験させ興味を持たせて、研究者として育てていくのかが重要で、そのための方策をたてることが大事であるという方向性が明らかになりました。農国センターはこれらの意見や議論をとりまとめ我が国の取組の方向性に関する提言としてまとめることとしています。なお、パネルディスカッションの記録や提言の内容は、農林水産省と相談の上、公開する方向で考えています。

（浅沼修一）

若手研究者を育てよう、みんなで